

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果と結果を受けた取り組みについて

武雄市立（山内西）小学校

本校では平成 26 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、発達途上の子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査の結果をお知らせることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況と意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校 6 年生は、全国学習状況調査、それ以外は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共に A 問題、B 問題という 2 種類のテストで成り立っています。おおむね A 問題は基本的な問題。B 問題は思考力を要するような問題です。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H22 入学 現 5年	65.9 (0.97)			59.3 (0.99)		
H21 入学 現 6年	62.4 (1.05)	70.5 (0.96)	55.1 (1.01)	70.3 (1.06)	75.0 (0.97)	54.9 (0.96)
H26 正答率の全国平均		72.9	55.5		78.1	58.2

5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較

(2)意識調査から読み取れる実態

- ・5・6年とも「予習」「復習」「家庭学習」は、県同等にできているが、自分で計画を立てて学習したり、苦手な教科の学習を自主的に行ったりすることが県平均をやや下回る。
- ・5年においてICTを活用した授業はわかりやすいと90%の児童が答えている。
- ・5年において読書が好きな子どもが95%で、県平均を12%上回っている。
- ・5年・6年とも家庭でのテレビの時間やゲーム、スマートフォンなどを使用する時間が多く、学習に取り組む時間が2時間以下である。
- ・寝る時間や起きる時間が定まっていない児童が多く、生活習慣のリズムを身につける必要がある。
- ・6年において地域の行事に進んで参加している児童が多く、地域のことをよく考えている児童が県を12%上回っている。

2 取り組み状況

(1)H25年度の成果と課題(H25年度の取組に対するH26年度の調査結果と課題)

- ・5年は、国語・算数において、県平均をやや下回るが、ほぼ同等である。
- ・6年は、国語B(主として活用)において、わずかに県平均を上回っているが、国語A(主として知識)、算数ABにおいて、県平均をやや下回っている。
- ・国語・算数による少人数指導や基礎基本の習得に向けた「やる気タイム」などの取り組みを行った結果、5年の国語・算数及び6年の算数において、「知識・理解」は県平均を上回っている。
- ・校内研究や”進”魅力ある学校づくりにより、言語活動や伝え合う力の育成を図ったが、5年6年ともに、「話す・聞く・書く」が県平均を下回っている。
- ・6年の国語への「関心・意欲・態度」を高めるとともに、5年6年において、「思考・判断・表現力」を伸ばす必要がある。

(2)改善に向けた具体的な取組

① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心とした習熟度別学習の充実を図り，T T及び少人数による指導方法や指導体制の工夫改善を行う。
- ・学ぶ意欲が高まり知識・技能を確実に習得していくような秋田県の学習形態や西部型授業を実態に応じて取り入れ，授業スタイルについて共通理解を図るとともに，共通の自己評価項目を設定し，指導方法改善に役立てる。

②学ぶ意欲の高揚のための工夫

- ・ICT活用における授業作りの工夫（電子教科書の活用，スマートボードなど電子黒板の活用，タブレット型端末の有効活用，スマイル学習，電子教材開発）
- ・学び合いの学習形態の工夫（2人で，グループで，みんなで）

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

- ・立腰教育の推進を図り，学ぶ姿勢・態度を徹底させる。

②（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

- ・朝の時間を利用した「漢字検定」「算数検定」「すくすくテスト」の実施により，小刻みに学習状況を把握し，放課後の時間を利用した「やる気タイム」により，繰り返しチャレンジによる基礎学力の向上を図る。
- ・「朝読書」「立腰タイム」の推進による学習に向かう姿勢の高揚を図る。
- ・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」による家庭での学習習慣，生活習慣の実態把握と，学校での学習習慣の改善。
- ・「家庭学習のてびき」「学びのすすめ」「トークタイム」を活用した言語活用能力の育成。
- ・スマイル学習の充実による，学び合いの強化と深化を図る。